

はじめに

- 共通テスト「歴史総合，世界史探究」は，第1問が歴史総合，第2問から第5問が世界史探究の問題となっています。歴史総合は日本史部分を含めた近現代の歴史ですが，世界史探究は，従来の世界史Bの後継教科です。
- 共通テスト「歴史総合，世界史探究」では従来の「世界史A」と「世界史B」で出題されてきた，資料などから読み取る問題を中心として出題されません。
- 歴史的知識の量は抑えられ，生徒自身が主体的に考えることが求められています，基本的な知識がなければ，正しい判断はできません。

この問題集について

- このマーク式基礎問題集「世界史探究」は，世界史探究の教科書に書かれている基本的な歴史用語を身につけるための問題集です。
- 共通テストの傾向にあわせて，問題のリード文に一部会話文を取り入れ，問題の形式も最近の共通テストで出題されている形を取り入れました。問題は，基本的に短文の正誤判定問題としました。また，最近の私立大学入試でも，短文の正誤判定問題が出題されることが多くなりました。正誤判定問題には問題演習が不可欠です。なお，解説の○×は選択肢の短文の正誤を表しています。
- 解説には重要な用語を並べたまとめをつけてあります。あえて，細かい説明や時代・年代はつけていません。これらの用語を自分で組み立てて流れが説明できるようにしてください。これができれば，その分野の基本的な流れが理解できています。組み立てることができなければ，教科書を読み直して，もう一度チャレンジしてみてください。
- この問題集で基本的な知識を身につけた後，「共通テスト総合問題集 歴史総合，世界史探究」(河合出版)などの読み取り問題を含む問題集や，過去の共通テストの問題を収めた「過去問レビュー」(河合出版)などで，実戦的な演習を行ってください。

目 次

第1章 文明の成立と古代文明 7

- | | | | |
|---|----------|----|-------------|
| 1 | 古代オリエント | 7 | 古代インド |
| 2 | エーゲ文明 | 8 | 前近代の東南アジア |
| 3 | 中国文明 | 9 | 古代ギリシア |
| 4 | 春秋戦国・秦・漢 | 10 | ヘレニズム時代 |
| 5 | 魏晋南北朝 | 11 | 古代ローマ |
| 6 | 唐と周辺諸国 | 12 | ローマ帝国とキリスト教 |

第2章 イスラーム世界の成立とヨーロッパ中世 28

- | | | | |
|----|----------------|----|---------|
| 13 | イスラーム教の成立と発展 | 17 | 教皇権の盛衰 |
| 14 | イスラーム世界の拡大 | 18 | 身分制議会 |
| 15 | ゲルマン人・ノルマン人の移動 | 19 | 神聖ローマ帝国 |
| 16 | スラヴ人とビザンツ帝国 | | |

第3章 東アジア世界の展開と諸帝国、大交易時代 40

- | | | | |
|----|------------|----|----------------------|
| 20 | 宋と周辺民族 | 23 | オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国 |
| 21 | 大モンゴル国 | 24 | 明・清 |
| 22 | ヨーロッパの海洋進出 | 25 | 清とロシア |

第4章 近世ヨーロッパ世界の動向 52

- | | | | |
|----|-------------------|----|-----------------|
| 26 | ルネサンス | 30 | イギリス革命 |
| 27 | 宗教改革・カトリック改革 | 31 | 18世紀のヨーロッパ |
| 28 | 16世紀スペインとオランダ独立戦争 | 32 | 17～18世紀のヨーロッパ文化 |
| 29 | フランス絶対主義 | | |

第5章 環大西洋革命と欧米国民国家の形成 65

- | | | | |
|----|--------------|----|--------------|
| 33 | 産業革命 | 39 | イタリア統一 |
| 34 | アメリカ独立戦争 | 40 | ドイツ統一 |
| 35 | フランス革命とナポレオン | 41 | アメリカ合衆国の発展 |
| 36 | ウィーン体制 | 42 | ロシアと東方問題 |
| 37 | 19世紀のイギリス | 43 | 19世紀のヨーロッパ文化 |
| 38 | 19世紀のフランス | | |

第6章 アジア諸地域の動揺と帝国主義 **83**

- | | | | |
|----|---------------|----|-----------|
| 44 | 19世紀の清 | 48 | 中国分割 |
| 45 | 19世紀の西アジア・インド | 49 | 辛亥革命と中華民国 |
| 46 | 東南アジアの植民地化 | 50 | インドの民族運動 |
| 47 | アフリカ分割 | | |

第7章 第一次世界大戦と世界の変容 **95**

- | | | | |
|----|-----------|----|--------------|
| 51 | 三国同盟と三国協商 | 54 | ヴェルサイユ体制 |
| 52 | 第一次世界大戦 | 55 | 1920～30年代の中国 |
| 53 | ロシア革命 | | |

第8章 第二次世界大戦と冷戦、今日の世界 **105**

- | | | | |
|----|---------------|----|-------------|
| 56 | 世界恐慌と各国の対応 | 61 | 東南アジア諸国の独立 |
| 57 | ナチ党 | 62 | 第二次世界大戦後の中東 |
| 58 | 第二次世界大戦 | 63 | 第二次世界大戦後の中国 |
| 59 | 冷戦 | 64 | 第二次世界大戦後の朝鮮 |
| 60 | 第二次世界大戦後の欧米諸国 | 65 | アフリカの独立 |

第1章 文明の成立と古代文明

① 古代オリエント

先生：民族の移動，およびそれにとまなう文化の接触は，歴史上重要な種々の結果を生みました。

高橋：異民族からの文化の受容という点では，メソポタミアで，セム語系のアッカド人が，その言語を **ア** から学んだ楔形文字であらわしたのが，その古い例の一つだと思います。

先生：そうですね。**イ** で発布されたハンムラビ法典も，楔形文字で書かれていましたね。

川口：さらに，楔形文字解読の資料となったベヒスタン碑文は，^aアケメネス朝時代につくられたものです。楔形文字が長い間使われつづけたことがわかります。

田中：民族の移動では，^b古代エジプトで中王国末期にナイル川流域に異民族のヒクソスが侵入し，メソポタミアにくらべて閉鎖的な文明を形づくっていたエジプト人に衝撃を与えました。

先生：そのとおりです。

問1 会話文中の空欄 **ア** に入る語句あ・いと，空欄 **イ** の王朝について述べた文X・Yとの組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。

ア に入る語句

あ フェニキア人

い シュメール人

イ の王朝について述べた文

X セム語系のアムル人が建てた王朝である。

Y 「海の民」と呼ばれる民族に滅ぼされた。

- ① あ - X ② あ - Y ③ い - X ④ い - Y

問2 下線部①のアケメネス(アカイメネス)朝について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ダレイオス1世は、ペルシア戦争に勝利してギリシアを支配下に収めた。
- ② ティグリス・ユーフラテス川中流域に、新都ベルセポリスが造営された。
- ③ 各地に知事(サトラップ)が置かれ、「王の目」「王の耳」が監察した。
- ④ アレクサンドロス大王の遠征で、マラトンの戦いに敗れて滅んだ。

問3 下線部②について述べた文あ・いについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

あ 古王国時代には、中心都市テーベの周辺に巨大なピラミッドが建設された。

い 新王国時代には、アメンヘテプ4世(アクエンアテン)がアテン(アトン)一神教を強制した。

- ① あ－正 い－正
- ② あ－正 い－誤
- ③ あ－誤 い－正
- ④ あ－誤 い－誤

※○×は選択肢の短文の正誤を表しています。

第1章 文明の成立と古代文明

1 古代オリエント

問1 解答 ③

③い. 楔形文字を創始したのは、シュメール人である。Xハンムラビ法典は、バビロン第1王朝のハンムラビ王が制定した。同害復讐法であること、身分による刑罰の違いがあったことが特徴である。バビロン第1王朝は、セム語系のアムル人が建てた王朝である。

①②あ. セム語系のフェニキア人は、地中海東岸にシドン・ティルスなどの都市を建設し、地中海貿易で活躍した。フェニキア文字は、ギリシアに伝わってアルファベットとなった。

②④Yバビロン第1王朝はヒッタイトに滅ぼされた。「海の民」はヒッタイトを滅ぼし、エジプト新王国とも戦った。

問2 解答 ③

①× アケメネス朝のダレイオス1世は、ペルシア戦争中のマラトンの戦いに敗れて、ギリシア支配には失敗した。

②× ダレイオス1世は新都ペルセポリスを、ティグリス・ユーフラテス川中流域ではなくイランの地に建設した。ペルセポリスは、のちにアレクサンドロス大王の東方遠征で破壊された。

③○ ダレイオス1世は全国を州に分け、知事(サトラップ)を派遣して統治させ、その監視のために「王の目」「王の耳」と呼ばれる巡察使を派遣した。

④× アレクサンドロス大王に敗れたダレイオス3世が暗殺され、アケメネス朝は滅んだ。マラトンの戦いは、アレクサンドロス大王の遠征中ではなくペルシア戦争中の戦いである。

問3 解答 ③

③あ× エジプト古王国時代には、中心都市テーベではなくメンフィスの近郊に、ギザのクフ王のピラミッドなど巨大なピラミッドが建設された。テーベはエジプト中王国・新王国の都である。

い○ 新王国時代には、それまでの多神教信仰に代えて、アメンヘテプ4世(アクエンアテン)がアテン(アトン)神一神教を強制し、都をテーベからテル=エル=アマルナに遷した。

まとめ 古代オリエント

メソポタミア	ティグリス・ユーフラテス川	エジプト	ナイル川
シュメール人	ウル・ウルク	古王国	メンフィス
アッカド人		中王国	テーベ
アムル人	バビロン第1王朝		ヒクソス侵入
ヒッタイト	ハンムラビ王	新王国	テーベ
	「海の民」		アメンヘテプ4世
フェニキア人	シドン・ティルス		
アラム人	ダマスカス		
ヘブライ人	出エジプト	バビロン捕囚	ユダヤ教
	アッシリア	オリエン特統一	
	リディア	エジプト	新バビロニア
	アケメネス朝	キュロス2世	メディア
		ダレイオス1世	オリエン特再統一

② エーゲ文明

問1 解答 ④

④ア. クレタ文明はエーゲ海のクレタ島のクノッソス中心に栄えた。イ. エーゲ文明後期は、ギリシア本土のミケーネやティリンスで栄えたミケーネ文明である。

①②ア. メンフィスは、エジプト古王国時代の中心都市である。

①③イ. アッシリアは前7世紀に古代オリエントを統一したセム語系の民族・国家である。

問2 解答 ②

①× 強固な城塞をもっていたのはミケーネ文明である。

②○ クレタ文明・ミケーネ文明は青銅器文明の段階であった。

③× クレタ文明では絵文字と線文字Aが使われ、ミケーネ文明では線文字Bが使われた。線文字Bは、ヴェントリスによって解読された。

④× クレタ文明はイギリスのエヴァンズによって、ミケーネ文明はドイツのシュリーマンによって発掘された。

まとめ エーゲ文明

クレタ文明	トロイヤ文明	小アジア
クノッソス	エヴァンズ(英)発掘	シュリーマン発掘
ミケーネ文明		
ミケーネ・ティリンス	シュリーマン(独)発掘	
ドーリア人または「海の民」によって滅亡		
暗黒時代		